



癸心集

神谷藏書

利
2960



清窩先生祝壽篇

松延齡文

講古堂藏版



葵心集序

今茲余齡滿七十子弟相議言曰先生
 至古稀而矍鑠可謂支屬之夷懌矣嘗
 欲摘藻以祝壽余曰不可古有尚齒之
 會蓋是貴介耆英之所聚而非吾徒之
 可處也子弟愀然曰詩不言乎壽考維
 祺以介景福宜哉耽諷詠弄毫素之徒
 雖逸士幽客而不能無作之先生何不

處于此乎余曰有苟然自古於吾神宮
亦屬文雅老和歌之輩不為不多矣如
和歌也始載新古今集而歷朝之撰集
無不載焉吾先人亦載續千載風雅集
是吾家之遺美也值其脩齡則若夫大
進清輔著布袴以行尚齒之會神主重
保集禰宜法師以作七叟之會者亦或
有焉子第曰先生取說皆和歌之高塵

而未聞其有謂屬文雅者余曰有之著
神書撰史籍也世有其人豈可謂無文
乎憾中世天下瓜裂國家麻亂無弭兵
之日自是神稅墜地部封除却神宮日
窮年衰終窶且貧豈有肄業游藝之餘
情乎其間雖有名流之師而有承其規
誨者而不講焉已洛有友心齋山本正
重者候侍竹門之良恕法親王稍得和

歌之法慶安年初曳杖此晦養人皆觀其風致師事者衆數而日詠月會吟哦不斷苟是雖險層未可得其精蘊是亦近世之盛事也自是而來嫻和歌化風雅之復古也什之三四矣又屬文興神道者亦多矣哉今其子弟欲聚麗藻以祝余壽也未可取不可也其第託之神境必毋馳殊方嘗竊向古人之有文雅

有和歌之陽光之葵心是余之可乎子弟之微意也子弟唯々題名何為之哉援毫書松延齡友以與焉

元祿十六年癸未初春吉旦

權禰宜正四位下度會神主延貞撰



葵心集

松延齡友

大中臣忠長

兩宮大官司

神垣此妻乃子と分と契とよみて頼も常よ妻は安人

荒木田守洪

正三位園田一禰宜

嘆かん花とと人乃す川をよとるはてと世はよふわと

荒木田經冬

從三位中川二禰宜

か世はゆきと松れとらひはれ葉とと花をいそよとるは安人

荒木田守相

園田三禰宜

新代のまはかたのてはたあよさうゆ松よらひらう人

荒木田氏貞

藤波四禰宜

後ううゆ松よらひらうゆ松よらひらうゆ松よらひらう

荒木田經晃

中川五禰宜

やうゆ松よらひらうゆ松よらひらうゆ松よらひらう

荒木田永親

世木六禰宜

りあゆ松よらひらうゆ松よらひらうゆ松よらひらう

荒木田守夏

園田七禰宜

ゆあゆ松よらひらうゆ松よらひらうゆ松よらひらう

荒木田守風

園田八禰宜

ゆあゆ松よらひらうゆ松よらひらうゆ松よらひらう

荒木田守世

井面九禰宜

ゆあゆ松よらひらうゆ松よらひらうゆ松よらひらう

荒木田守易

井面木工

十か層り此の松は世にありて極て此の松を先ん

荒木田守富

園田主計

末をく宿ふかそ層ん七十歳の此も子孫伝承不替りて

荒木田守應

園田監物

形も此の松のひびくらしを訓てらん層ふかしこれ松

荒木田守明

園田勘解由

此の松は人衆も志願し幾の世の松を末に松は笑りて

度會常有

正三位檜垣二禰宜

幾の松分神まつく瑞籬みわりぬ松とや友とらん

度會未彦

從三位松木二禰宜

七十の松今よりと世と松をえふかやぬ友や松とて此松

度會親彦

松木三禰宜

この松は新瑞の松と松の松とて松とて松とて松とて松とて

度會常俱

檜垣四禰宜

この松は神の松とて松とて松とて松とて松とて松とて

度會貞命

檜垣五禰宜

幾子の子孫つゝ宿不極つゝ松のまつひはまはたあつゝるん

度會貞盈

檜垣六彌宜

徳とあふくゝぬをきつゝんをたふとつと君つゝつひき

度會條彦

松木七彌宜

幾つゝつゝあつゝつゝ常盤から松の本流とかりては男を

度會智彦

松木八彌宜

く品津代とかりぬをきつゝんをたふとつと君つゝつひき

度會貞惠

檜垣九彌宜

幾つゝつゝあつゝつゝ常盤から松の本流とかりては男を

度會孟彦

松木十彌宜

いゝ子年かゝゝぬをきつゝんをたふとつと君つゝつひき

度會福彦

松木右門

勃きかた玉よ杖けく飲してさうりなやの世のまうえ

度會直彦

松木修理

いゝ世孫と人れ飲のつゝとつと松の本流とかりては男を

度會有彦

松木主膳

いふも也歌をわすれ松のよ馴れもく河うふ友露の声

度會貞精

檜垣内膳

伊呂波の宿小松の末をくちせれ友とせれりやん

度會貞義

檜垣右京

軍訓てかきぬ友や十のりぬ味山の新の下風

大中臣弘晨

久保倉左太夫

小羊路人歌あまのせれい名つわぬよ松紙本とせりて

荒木田盛尹

堤刑部

極しらりらるるはは松えんがらぬ長いし世のいん

神服元辰

益大膳

とがぬぬ友やせりて砌から松とせれりやん

秦元親

山田大路藏人

柴らとせりらるるはは松えんがらぬ長いし世のいん

荒木田盛僚

久保倉右近

かほりかんちの友よあやせりて松の葉(冬)

大中臣弘紹

久保倉助之丞

うけつゝて方代はなれぬとのみまわれ松よきやとらん

秦熙常

龍未女

未とてい若のほくことさうとくわさひとちこれ松よきわく

度會正恩

橋村采女

子代はくと紫之ぬさふ染わさう同く年終人宿れ松うえ

釋妙笑

高日山

常明寺

神道ふり校り松れたらんこれわくの宿めらさうて

釋弁那

由鞆

紫つと色そ幾世のまれなとらんなりまはゆのむれ松うえ

尾周欽

小倉氏

幾の世えがうぬ本とやうり種を染つて色れ松うえ

荒木田盛息

堤織部

みさかかり松ととあよせ七十葉のまごころりけえけえ

度會延經

出口権大夫

神籬やふくことさうり松うえとわらふせの末を色けき

度會末利

龜田彦左衛門

とこのぬねをいふと七十歳よりその漢書までと経ぬる

度會末紀

福井可助

七十歳のまはつてとあはれ松や若き子世れつひい

度會弘幸

中西兵庫

幾子世の松のぬねをいふと八十歳の松の枝

度會正竹

橋村伊右衛門

七十歳と子世のうめと松とて松や松のなつかひん

度會永忠

上部孫大夫

松か松のきと松とて松のなつかひん

度會弘厚

中西治左衛門

新よのじり枝の松や世と松のなつかひん

度會文始

栗野右兵衛

かき松のきと松とて松のなつかひん

福秀詮

二日市兵部

かき松のきと松とて松のなつかひん

泰正珍

杉木宇兵衛

友とるる松とそとるる今より此中分ちて代りてとるる

村主常直

中西匠作

吹風れも采々ふまふや松とせむせり友とるる

村主正有

春木助六

月と日と恵み松うけて幾ふも分り得の松とるる

秦弘次

足代庄大夫

百代と松のきき繁よ繁りてとるる老せぬ松の代りて

大中臣弘茂

久保倉金吾大夫

よらいと松とて繁りてとるる松とてとるる

秦信昌

中西清大夫

林道山松とてとるる松とてとるる松とてとるる

秦能房

松村甚大夫

松とてとるる松とてとるる松とてとるる松とてとるる

秦正倚

田中木工大夫

とてとるる松とてとるる松とてとるる松とてとるる

秦吉幸

龜田武大夫

十か角より花咲は成らん法よかるくさうひの女やまらん

宗辰

村田三仲

ふれや東の松をさたりふ立訓てごちよ由さへ人の齡を

秦光浮

杉村文藏

子世し魚じを山李瓜奈くさるぬんをさけりすや

秦由穎

村田次郎大夫

今より二葉の雲にかさしてわさ中をせよのひとる孫ん

秦正甫

井村傳大夫

女とん何人のうははあまらよきなうや松と極々を

秦忠利

中村六郎兵衛

ゆく末や松のちりあはれなう松のなりとあま深へく

秦貞恒

鈴木弥次右衛門

八子代と免色ぬ女やあうく夕色はうく一庭の松う枝

秦家貞

笠木又左衛門

さか魚ぬん女と葉り魚末く子葉の厚のまうえ

秦光晴

筒井三左衛門

色く起ぬ松成しとらや七十葉のまより葉のふせはけ末

秦高邦

岩間八郎右衛門

かへくはまひ末葉と成とのと別来し松のふせのようひよ

融白

赤根安榮

空の能葉のひしき不葉と成とくさ彩のぬへふ松のひ末

秦栄胤

赤根新右衛門

あひなきしこのり神路の山雲の今とひくは成とみるひく

秦光庸

杉村清大夫

あつとん人れんを源とたり世とけさうとん成松よらり

秦正方

杉村万右衛門

七十れまよりみ世と松とらふらと成ん乃名はくわ

秦家忠

成子太郎左衛門

うけ極くやふとを二葉わ本葉成ふかぬ若ふとせハ

秦光規

杉原丹藏

い宿よちとて葉まふゆくうけ極くやふりのちれちよれ松成

秦賀宗

岩田善左衛門

もはなふまのりきし松後より留をきかぬあひまらふ

秦清厚

長尾丹治

十のふまのりきし松後より留をきかぬあひまらふ

秦喜實

宇野治右衛門

月意日とせつうふ物りけらとせれなとらふそたのり

秦常安

中澤金大夫

栲もりまのりきし松後より留をきかぬあひまらふ

秦仲正

世木庄藏

世常のりきし松後より留をきかぬあひまらふ

度會延貞

河崎勘解由

ふさふら栲あり年れまらけりまのりきし松後より留をきかぬあひまらふ

度會延貞妻

福村氏女

そとれあしれみよりと海と松りしよりと留とせり命とらふ

度會常昭

久志本縫殿
延貞二男

あけとあくとみよりりの松と海と松りしよりと留とせり命とらふ

度會末韶

福井主税
延貞三男

わんげんかきよと宿ふまへんふ年此去のありぬ終成

度會延治妻
延會嫡男河崎右近
妻齊藤氏女

ふとせ終人若よひりきて其のむすねの去もこそはるん

度會常昭妻
延會次男久志本縫殿
妻久志本氏女

さき終れり松よちさつて七十歳の去よりかみふりて世可代

高嶋祐貞
門弟利菴

系うけあかしくねなとん一の縄さつと終ち松やまうん

度會尹彦
門弟松木兵部

後さくさつりふしそあ終ちか松終ちあふあ代やる

度會賀弘
黒瀬辰大夫

とりふ老て終世とんひ庭の去

度會壽彦
官後宇右衛門

停やふとふ一松あ終ちあ終ち

度會弘負
足代權大夫

見馴れり松やゆもり人老とふ

荒木田武因
榎倉敦負

松や友人れうひもあけ春

度會弘孝

中西善内

松と友あうぬまこり老の云

度會範尚

河井右近

まじり會さくまわひくほ栄の云

度會宗光

春木舍人

くせり人松とやあひふ家の云

秦安通

三村勘右衛門

秋や下りまは交りわす法云

度會正淑

福村善左衛門

松やうきさうりまはうりぬん法の云

釋加傳

楠邊養心菴

ふとりま松り終るとれうひの云

榮安

岡祐詮

幾まは松よちさうりて老の友

玄隨

窪純安

なとみと幾世のまもり常盤草

度會貞充

門第檜垣奈女

まもりまもり身はくまど祢乃山

宮秋陽

宮浦喜大夫

童顔映緑色常紅秀樹惟看伴主翁千
歳茯苓託靈藥四山松韻屬家風

度會末雅

福井左明

偏喜皆來物色豊古稀年髻雪初融閑

肉養老與誰伴長壽天然十八公

哦松子

二見前左衛門
度會忠貞

常友蒼松離俗塵賢髦七十賞心新佳
盟不爽興增永猶約千春又万春

度會忠知

二見舍人

百尺長松清節秀蒼蒼黛色四時深夜
閑更弄細泉響雨霽新聞琴瑟音白鶴
呼雛宿高杪青牛引犢憇平林憇懃期

約伴千歲附與佳人寄賞心

崔溪

福嶋三木

百尺拂雲日向榮千秋壽色疊陰清
主人締得歲寒友故領著英第一盟

度會正兩

橋村數馬

老松高秀飽青色枝葉尋常鬱森然
得主人歲寒節長為交契保龜年

度會清光

春木左衛

主人七十渠還老勁質正心相與從
飽歷歲寒凝素髓長侵霜雪逞青容
深秋詠月思三友靜夜吟風現一龍
獨護天年君子操遐齡為祝伴貞松

度會正為

廣田繁後

妙術願神經幾年朱顏黑髮市中仙
青松百尺真良友志節猶比貞操堅

荒木田盛續

堤兵大夫

齡滿古稀逐賀情舊因飲燕玉杯傾庭
松奏曲鶴來舞千歲天遊千歲榮

立軒清在

木曾平島

庭前高秀老松樹子葉孫枝綠鬱然七
十主翁締交契從今應數萬斯年

藤原求宣

增山治部

延齡好友古庭松綠色千年貞操容呂
律風音簫瑟調閑翁倚几不知慵

大中臣弘克

久保倉縫殿

清窩醫老愛松樹樹伴遐齡綠不踈秀
葉保青霜降後繁枝添色日長初三餘
堂上客擔笈鳴鶴庵中人讀書千歲向
榮猶有待喜看其子和之居

其燕居之處號三餘堂待客之處號清窩
鶴庵相連之處有一居號和之居男延
治居于此故
句中及于此

秦知國

谷兵部

蕭洒出塵霜雪操高含秀色蔭重重
知西嶺千籠綠共約長生不朽松

好問

二本杉左兵衛

密密清陰濃露香春風秋月入詩場
人伴得千丘壽從此滿頭歷幾霜

辨庵直元拙

直江宮内

難堪蒲柳秋落獨伴蒼髯保精神
自守歲寒君子操豈須寵飾大夫塵
風聲

遠引步虛容翠色恰宜不老人七十傳
言從古少誰知君傲玉壺春

與巖竹

與野好節

清陰擎蓋萬仞高風自颼颼氣自豪
鬱鬱成林縮蓬島交情坐對脫塵勞

櫟庵

池田次郎大夫

聞君七十上春臺為祝南星壽域開
報合交情千歲綠乾坤那別覓蓬萊

龍一興

龍松庄次郎

積善有餘德潤身古稀頌白轉精神千
年青翠成交契傾蓋自斯歷萬春

沙門光叙

久留威勝寺

杖國俊翁向地仙長松作友逾加年如
何齡算不應識名在瓊簡南極邊

釋寂照子

白崎中山寺越山

庭際青松不記年枝枝繁茂自神仙煉

丹縱意人生外贏得半窓與鶴眠

釋石點

尾部山光原寺

齡閱古稀保谷神庭松為友若相遵夜
來靈鶴德音露地出茯苓榮觀屯自倚
藥欄孤採燭他施橘井好回春八千歲
月轉餘慶祝得蒼顏與大椿

沙門月江

朝熊妙高庵

振古庭松秀紫冥仙禽巢翠幾千齡鬢

翁傾蓋風情外
月色枝頭眼增青

釋光達

船江海藏庵

延齡先祝者
稀年寒暑無侵
清節全不用
爐中丹藥力
青松為友得
神仙

釋祖康

中山寺座下

不識生成歷幾秋
為君青韻奏風流
寒來一色欺霜雪
清操千年持好述

釋智璉

中山寺座下

門庭占得神仙境
荔鬱蒼髯翠作隣
詎用人生古稀計
歲寒又見幾千春

釋野鷗子

中山寺座下

遶巖偃卧竟蛇勢
葉密枝高百尺長
屢觸微風琴細細
遙懸纖月影蒼蒼
暖園秋巷豈同羨
寒曉雪庭尚逞粧
貞操獨看千歲色
伴君鶴筭等陵岡

釋光義

中山寺座下

千尺青松撐半天，壽君可閱萬斯年。當
餘鶴夢一枝翠，圓得長生不老仙。

鈴川香巖

中村觀音寺

逍遙自得不知老，神氣既通玄牝門。苔
徑鋤雲春雨後，手栽松子長兒孫。

釋牧元

中村圓光寺

千歲老松万仞岡，操姿凌雪又侵霜。豈
能根下餘靈藥，尚見庭中作蔭涼。葉葉

摩天俱一碧，枝枝歷地各高粱。古稀德
色誰斯友，唯有蒼髯壽考長。

釋尚政

世義寺南之坊良

老樹凌霜抱素真，四時標格自宜人。流
肪香實皆靈物，永你遐齡知有因。

秦光好

森本重兵衛

數寸松苗秀葉濃，春風吹碧逞清容。期
君他日服香子，飽歷遐齡見異蹤。

度會延治

河崎右近
延貞嫡男

獨立渾疑太古神陰陰翠蓋又宜親參
花伍柳餘清蔭映月帶風離點塵山岳
瘦時高挺秀雪霜堆處好全真四時貞
潔將何比長壽唯期姑射人

岩崎玄貞

門弟慥柄鳩遊方齋

百尺亭亭絕俗姿蒼髯冒雪歲寒枝清
陰喚做忘年友交契入真無盡期

秦近典

門弟春木源左衛門

平素懷神物盤桓常豁襟勢疑龍躍出
聲訝鳳清吟冒雪三冬幹凌霜萬古心
須知閱千歲貞操正如今

度會晨名

門弟佐久目木工

翠影千尋出俗塵龍鱗鶴骨玉嶙峋由
來同氣相求去長壽堅心有所因

度會常信

門弟檜垣造酒

松樹蒼然攔檻前相親
疎影耐延年誰知祝壽多
新句尤老開筵纔七篇

秦貞易

門弟山口伊右衛門

稀年催宴勸仙杯今日一家笑
口開偃蓋看來擎壽色濃陰當戶翠
為堆

中倉義宣

門弟七之丞

直幹參天千歲綠濃陰秀嶺四時新
貞心眉壽舊盟久日夜交情如主賓

野呂馨軒

門弟祐玄

伍栢貞心秀後凋山岳榮主人壽
相似焉不結新盟

松本貞八

門弟志州相差峰

挺秀依岩岫三冬冒雪青主人誰友
善翠影契千齡

大中臣弘平

門弟久保倉新七

蒼松添綠示春夫遲日影暄書牖前
勁

節齡高シ因テ作レ友ト人生祝シ得タリ古稀年

度會門彦

門第松木左近

亭亭名君子樹碩茂豈尋常ナシヤ惟愛ス鐵心操
自憐ハ玉髓香龍根生琥珀鶴語奏笙簧
今日祝高壽更期千歲長

秦伊光

門第二本杉源祐

風葉亭亭ト景色清主人撫愛シ悅ム幽情翠
陰自似タリ壑响域窓外長聞仙鶴聲

雲耕

門第山原右兵衛

數尺蒼髯聳碧夫南山賀壽恰如仙吟
風詠月千齡友平日從容延幾年

度會正弘

門第橋村内藏

亭亭名松樹聳高園生意日新呈瑞祥十
歲貞姿兼德舊百重秀葉與名昌曾諳
喬氏啖腴術併得李公却老方七十春
秋今既富安榮不比白頭郎

秦末伴

門第言澤主水

長松添翠自無塵清節清陰悅可人祝
得天然同一氣遐齡從此契千春

早田諸義

門第源内

翠幹崢嶸老更蒼相親相近久彷徨誰
知這裏無何有憂喜所忘壽自長

秦政種

門第石丸喜太郎

操貞節獨凌秋子葉繁老幹脩壽德高

充可比幽襟豁日交游

秦幸決

門弟慶德右懸

眉壽不孤方有鄰高標偃蓋日相親何須仙鼎他未去松子從來堪養真

補遺

松延齡友壽博谷知國

谷兵部

すあまをまをふ松の枝乃數もあまの松や並ん

度會正弘

橋村内藏

津長歩のわらふ松の友とあまの松の葉と人此とらひと

度會末紀

福井可助

一樹庭松勢接天翠陰深密鎖雲煙主人頼得忘年友傾蓋來期幾且千

度會正淑

福本善左衛門

霜裏盤根雪裏枝貞松心事有翁知者
稀同賀憶成仲千載英情寄一詩

度會延貞

河崎勘解由

清陰翠葉步檐前相近相親七十年眉
壽從今非易計庭松為友亦天然
賀家君之壽歡情有餘因憶香山九
老會輒次其韻以賦前題成七言六

韻書紙尾

度會常昭

志本縫殿
延貞二男

家翁七十彌強健紅面不嫌雪染鬚新
句式歌千歲壽酒杯斯饗一家娛烟中
塵尾蕭然密霜後鱗皴錯落龕閑坐唯
能聽鶴唳盤桓豈是俟奚扶衆賓交祝
富文雅九老何須壯畫圖日日披襟愛
清節遊仙學得點塵無

度會末龍

福井主稅
延貞三男

杯行祝壽者稀春相酌相歌麴米春君
子好迷指松樹先知貞操保千春

祝賀小詩歌と集し歌古登葉

ししむらとまき九老乃舎よ白香山詩成はつて七人
又百七十歳と吟し多る尚畫乃舎れはみかかんわりのま
形しむらとまきとていそ文治公と替英舎とわとわと
そしむら司馬温公ハ美平舎とわした西へ移ましつた
もはうしつたあつたあつと吾國あは波と回しつて
右相公ハ六人の翁を何のあつと燕しそむらハ
亞相と東山たあつたあつとてい舎とわとわとと大和

先ては海にひてかたきわわの無事とてご紙書障り給
ひしうさくたうしむりいりやたせくは雲といひかた
うかゆるる魚しつろふ作と秋とていつうくさまひ
...ま下篇のうしらひり...ま世にまこなくおのりま
わりまんし今年の家君の七十歳よわてわらぬ
うしつらうしつまをくしつらうしつらうしつらう
てこのまをぬきつらうしつらうしつらうしつらう
まらひしつらうしつらうしつらうしつらうしつらう
らまらうしつらうしつらうしつらうしつらうしつらう
せまらうしつらうしつらうしつらうしつらうしつらう
ふしつらうしつらうしつらうしつらうしつらうしつらう
たれしつらうしつらうしつらうしつらうしつらうしつらう
まらうしつらうしつらうしつらうしつらうしつらうしつらう
たうしつらうしつらうしつらうしつらうしつらうしつらう
らうしつらうしつらうしつらうしつらうしつらうしつらう
らうしつらうしつらうしつらうしつらうしつらうしつらう

大夫齒經萬歲而德亦邵其勁節貞心
以神王于山岳與夫達尊三者又能相
符則君之所以命題亦非偶然者也其
有宿契也與其有宿契也與敢期其萬
壽億齡以至無疆矣子第詩歌成又託
之相知乃得歌若干首詩若干章卒哀
為小冊於是書以跋

元祿十六年丙月吉辰 不肖男正五位下慶會延治敬書

世の人杜少陵の詩を誦して七十の年を指すを以
てにたよりめれぬを比ふに或あるは其のハカシメ
てア案めみらるる海より年よりソノマシキと云ふ
あはれかいらは雷いそぐも妙くと顔のはちあてたよ
しく顔よ彼もきくまされん其のまゆもあやた
そらわんたごとくかしの笑の星といきききて
鴛鴦の玉浜みくは廣あふまうてく毛平くは民安
らびくまくと子こさかたれいおと又ハ世のくらし

志げきよきまぬ花をかく木にねひく憂も吾ひと
 かいゆきてを海うかたれいくはう心のまのしん
 右来福ぞとそ十葉あはかううすいおうなま
 び海まきちるやしりまきとまうともうねる
 ぬてうとねまきとせうあうんやめ未り海
 雲杖とうそへを海へらんくえまをたつすなひを
 こはうはうまのうまくとね延敷五とらよとせく
 よまきとまきうまうかんの文ね乃とねま出と

岐きげんにかう登うめてやとねまほいかく又ひ
 乃ままく求めまきとてかんまをのくーりれきた
 神籠の内外れさうみあくと逆き終うちあ人乃
 ううすくたもてげうーりれハ詞の国よ露とみり
 弟は海あまをむねひく字とふあを露とこた向
 とく百代とふいひく露と龜子のとらひをひん
 を海らんくとあねらよりーかくくまいんひま
 ちうと終ふ本のううとまきやよばいんねらけ

の子乃八十のきまても清は色濁くく(一)之は
くはこひと思ひくめくく(一)昔は志よき
くはく(一)く(一)く(一)く(一)

元禄十六年正月吉日

不肖男後五位上度會常昭謹跋

元禄十六年癸未之歲勢州神職河崎
氏之子為其老爺延貞開文筵祝老齡
獻壽酒作賀詞親族咸集賓友畢臻詞
章篇々積而成堆名之曰葵心集予亦
他日賦一絶應其所求
雛兒求類和清音老鶴齡高鳴在陰忠
孝由來同一理丹誠向日表葵心

大學頭林信篤

哉後昆勿忽畧諸

寶永二年乙酉二月吉日

清窩散人度會延貞書

寶永八年辛卯正月吉辰

書林

洛陽京極松原今井七郎兵衛

伊勢山田一志藤原長兵衛

